

科目名	心の脳科学	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	池尻 義隆			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)		反転授業		
ディスカッション・ディベート		グループワーク		○
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク		
その他		実務経験のある教員による授業		○
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こころの働きに脳の活動が関連していることを理解する。 2. こころの働きと脳の活動の関連を探る方法のひとつとして、脳損傷時のこころの働きを観察する方法(神経心理学)があることを知る。 3. 主要な脳機能イメージングの特徴について説明することができる。 <p>[授業概要]</p> <p>こころの働きは脳の活動(脳機能)と密接に関連している。近年の生体情報の画像化技術の進歩によって、様々な方法で脳の活動を画像化する(脳機能イメージング)ことができるようになってきた。本授業では、こころの働きの変調である精神症状と脳の活動の変調をはじめとして様々な脳機能イメージングの知見を紹介し、こころの働きと脳の活動との関連について学ぶ。担当教員は精神科医として約35年間にわたって精神疾患の診療に携わり、特に脳損傷時の精神症状とその基盤にある脳活動の関連を脳形態・脳機能画像検査により探索してきた。本授業では、その経験を活かして臨床例をできるだけ提示して理解を深める。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)]</p> <p>神経心理学の基本を学びながら、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習をしておくこと。各回、予習・復習合わせて4時間程度。具体的には総論授業にて説明する。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.総論(こころと脳の関係、研究手法の種類と特徴) 2.生態情報の画像化技術-脳形態イメージング、脳機能イメージング- 3.記憶の脳科学 4.感情の脳科学 5.意思、思考の脳科学 6.親子関係、養育の脳科学 7.自尊心の脳科学 8.社会性の脳科学 9.加齢の脳科学 10.対話の脳科学 11.創造性、芸術の脳科学 12.時間の脳科学 13.まとめ 				

科目名	心の脳科学	後期	講義	2 単位
サブタイトル				
担当者	池尻 義隆			
<p>[成績評価方法] 授業中の課題(20%)、レポート課題(10%)、テスト(70%)等を総合的に判断して評価する。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 授業中の課題は授業内でフィードバックする。 試験については、答案回収後、解答の解説を行い、質問を受け付ける。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理2-1/人間の心と行動を心理学の視点から把握して思考し、調査し、分析する力を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>学科DP番号/DP内容:心理3-1/心理学とそれに関連する諸分野の知識・技能を、主体的に修得しようとする意欲と姿勢を身につけている。 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容_:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:授業中の課題、レポート課題、テスト</p> <p>[教科書(ISBN)] レジメ・資料を作成し、配布する</p> <p>[参考書(ISBN)] 知・情・意の神経心理学 著者名:山鳥重 出版社:青灯社 (9784862280268)</p>				